



幹事会だより

第438回 6月6日(木) 参加6人

◆北阪神支部の会員数と組織率

6/1 現在 医科374人(76%)、歯科219人(68%)

◆情勢と医療運動対策

北阪神支部第39回支部総会と文化企画について話し合われた。記念講演のテーマを「睡眠障害」として講師を選定する予定。

◆当面の支部活動

文化企画として6月23日に吟行会(俳句)、秋頃にバスツアー(丹波ワイン)を開催予定。

◆次回幹事会

7月4日(木)14時30分～「産業振興センター 研修室B」にて開催予定。

健康情報テレホンサービス 通話料無料 (0120) 979-451



★24時間いつでも3分間程度の開業医の手作りの健康・医療情報を放送しています。
★インターネットでもご覧いただけます。過去の放送分もキーワード検索できます。URLは、<http://www.hhk.jp/> 左下のバナー「健康情報テレホンサービス」をクリック。

【7月のテーマ】

- 月曜日 プール熱
- 火曜日 実は歯ならびが大事! 80歳で24本残す!
- 水曜日 レーザー治療
- 木曜日 鼠径ヘルニア
- 金土日 うつの症状とうつ病

★祝日は直前の放送日のテーマを放送します。
★都合により、テーマの一部を変更する場合があります。
★患者さんに配布していただける放送テーマのミニチラシ(A6サイズ)を作成しています。送付ご希望の医療機関は事務局 ☎ 078-393-1840 まで。

兵庫県保険医協会のホームページは

<http://www.hhk.jp/>

*生涯研修に役立つ各種研究会のご案内、生活を支える共済制度のご紹介、日々の協会活動報告を掲載しております。ぜひご覧ください!

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2024年6月25日号 No.347

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

<http://www.hhk.jp/>

兵庫県保険医協会 第103回評議員会

社会保障充実へ転換し、より良い医療実現を



94人が参加した



特別講演で自民党の裏金問題について解説する上脇氏

協会は5月19日に第103回評議員会を開催した。西山理事長のあいさつの後、発言と執行部答弁が行われた。特別講演では神戸学院大学法学部教授の上脇博之先生が「政治家と裏金問題—企業献金のあり方を問う—」をテーマに講演した。

北阪神支部からは、谷口紀善評議員と島津俊二評議員が発言した。発言の要旨を掲載する。

(次のページに続く)

北阪神支部 谷口評議員の発言

診療報酬の実質マイナス改定

医療現場を苦しめ続ける政権にメスを



谷口紀善評議員

今年の診療報酬改定は、全体としては0.8%のプラスを謳ってはいるが、開業医にとっては決してプラス改定になっていない。第一に、多数に及ぶ新しく新設された届け出。一番はベースアップ評価料。1年分の給料、指定期間3カ月分の初診料、再診料の数、Excelに入力すれば簡単ではあるが、その後、半年毎の書類提出。その上、重大なことは、2年間限定であることだ。

従業員の確保といった意味ではよいが、2年経てば一度アップした給料を下げることはできない。初診料6点、再診料2点、諸々の労力を考えたら、割に合わないくらい低い点数である。現在と同じように患者が来院して、診療報酬が得られればよいが、患者が減少すれば経営は成り立たなくなってしまう。マイナカードにしても同じである。すべてが中途半端だ。デジタル化を進めたいという政府の思いは分かるが、この波にのって進められない診療所は廃業しろと言わんばかりの改定であるように思われる。

自民党の政治資金パーティー収入、裏金問題もいまやニュースで取りあげられなくなっている。この問題について国民に、正しく説明責任を果たしたのであるろうか。国会で、議員たちは皆、「わかりません、知りません」と言ってその場を凌いだのである。人の噂も75日、黙ってその時を過ぎれば、自然と世の中から消える。話題とならなくなるまで、じっと貝のごとく口を閉ざしておこう、そんな議員ばかりだ。会社が不祥事を起こしたとき、社長や会社役員が、テレビ報道などでひたすら謝罪している姿をよく見かける。社長は責任をとって辞職したりするが、議員たちは、自らバッジをはずすことはしない。また、選挙があれば立候補して政界に返り咲く。このような自民党に今の日本政治をまかせているのも事実である。国民はあきらめているのであろうか。国民は変革を求めているのも、また事実であるが、円安、物価高騰、右にも左にも動けなくなっているニッポン。モノの値段が上がれば、それに比例して消費税収も上がる。上がった分の税収は自ずと国に入るため、他の税金を引き上げなくてもよいのではないか。「子ども子育て支援金」などと言って、新しい「税金」を取ろうとしているが、物価が高騰したもとの、消費税で賄えるのではないのか。賃金がベースアップされても、一向に我々の生活は楽にならず、多くの税が、庶民を苦しめ続けている。

政府は、2025年度から2500億円かけてトマホークミサイルを大量に購入すると言う。何のための購入か分からない。平和外交ができないのか。日本の景気は悪く、悲惨な事件が多々起きている。平和と言うのはすばらしい、戦争は不幸であるということをおぼえてはならない。プーチン・ロシア大統領が中国の習近平国家主席と会談しているが、このようななか、トマホークなど入れても何の役にも立たない。一度自民党を変えて、他の政党が政権を担うべき、変える必要があるんじゃないかと思う。

北阪神支部 島津評議員の発言

マイナ保険証が招く日本の医療崩壊

『医療亡国論』！ここに極まり



島津俊二評議員

子どもの頃、時計など機械物を分解して遊んだ。しかし、結局はもとに戻せず、放置してしまったことがある。解体するとどんな影響が出てくるのか分からなかった。マイナ保険証の現在までのトラブルはまさにこの状態だ。つまり、すべてのマイナ保険証トラブルは何も検証せずに、行ったための当然のトラブルだ。そんな能力がない者の仕業に医療を任せられるか？ 私は嫌だ。そもそも私は、民主主義は監視・管理されない自由をどれだけ確保するかということだと思っている。十数年前、マイナンバー制度が計画され、情報の一元化、つまり個人情報のワンカード化が計画されたと聞き、猛烈

に反対し、声を上げ続けてきた。しかし、想像以上に制度は不備のまま、コロナの中で火事場泥棒のように、加速してきた。混乱している。

先日、河野デジタル大臣が進んでいない自治体のマイナンバーカード活用に釘を指した発言があった。彼らの想像できなかったトラブルが現実になっているのではないだろうか？ マイナ保険証の活用が公務員で4%台、自衛隊では2%台。彼らの反応を見ると、一般国民以上にマイナ保険証の問題点がわかっているのかもしれない。また、先日、偽マイナカードで携帯情報を取得する詐欺事件が発覚した。公開されている市議会議員の生年月日を取得し、偽造したものだ。容易く偽カードが作られるマイナカードは個人証明としては使えない。ICチップの読み取り機がどこでもあるわけではなく、その機器すら不安定なので、信頼には値しない。一連のトラブルに関して、私は川西市で市議会メンバーに説明した。そして請願をした。それで、その説明ではマイナ保険証を廃止するわけではなく、現在の保険証を資格確認書と同等にあつかうという請願を出した。そうすると請願に賛成してくれたのが「まほろば会」という青年会議所会議所出身の自民党系与党の7人の支持だった。大串デジタル副大臣の地元であるのにも関わらず理解してくれた。おそらく、その後かなりの圧力があつたものと想像できる。しかし、マイナ保険証の問題点の数々、特に震災の際の弱点を理解してもらった。阪神淡路大震災の際、共に青年会議所としてボランティアで参加した私の言葉を信じてくれた。そして賛成してくれた。川西市ではこの後、市民広報でのマイナ保険証の記事掲載は皆無だ。一つでも前に進んだものと思っている。しかしながら、岸田政権の支持率が微増しているというニュースを聞くと、今、選挙をたたかうと政府自民党が勝ってしまうのではないかと恐れている。選挙に出るとは言わない。ワンイシュー(単一論点)として迫り、マイナ保険証の欠点を国民に呼びかけるなど、このままたかかわないと私たちの犠牲者は続出する。東京で行われたオン資裁判の報告会では、医療難民やベテラン医師の現場からの退職者をだしていることが報告された。何らかのアプローチを探り、選挙でたたかえないだろうか。